



ヒトは無意識に顔らしさを見つけてしまう  
—顔らしさ判断を反映する脳活動 脳波と顔らしさ評定値の相関—

<概要>

本学、情報・知能工学系視覚認知情報学研究室の研究チームは、顔らしい物体を人が判断を行うメカニズムの一端を解明しました。

本研究では、顔らしさの認知と脳活動の関連に着目し、世界で初めて顔らしさ認知が早期の視覚処理の影響を受けていることが判明されました。

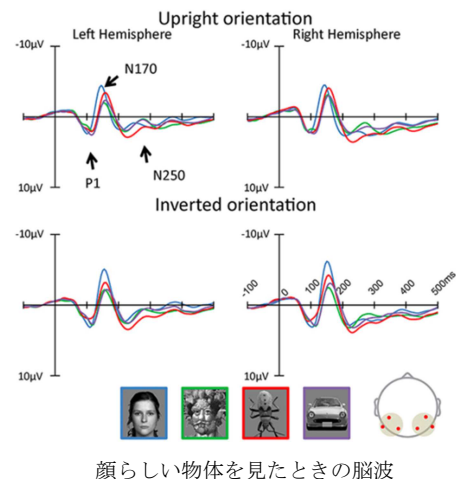
<詳細>

顔らしさ認知とは、ヒトの顔ではない物体に対してヒトの顔のように認知してしまうことです。この現象は、パレイドリア現象と呼ばれ、「無意味な模様、風景、物体などが、別の意味のある何かにみえる」というものです。心霊写真の多くもこの現象とされています。この現象は、比較低次の視覚処理で生じていることは議論されていましたが、実際にどの視覚処理の段階で生じているかは明らかにされていませんでした。

本学、情報・知能工学系視覚認知情報学研究室の研究チームは、顔らしい物体を見たときの行動と脳活動の関連を調査し、顔らしさ認知がどの視覚処理段階で生じるかを明らかにしました。

脳活動と実際の認知の結果の関連調査では、顔らしさの認知が視覚処理の初期段階で既に行われており、この処理は物体を見てから約 100ms という早さで行われ、我々が物体を意識する前より既に顔らしさの処理が行われていることが考えられます。

今後、本研究成果をさらに深め、ヒトの認知メカニズムの解明することにより、人間の脳の活動がより明らかにされることが期待されます。



顔らしい物体を見たときの脳波

詳細について、記者会見にて、筆頭著者である博士後期課程2年の二瓶裕司より発表します。

本研究は、文部科学省・日本学術振興会科学研究費基盤研究A(26240043)、基盤研究C(25330169)の助成によって実施されたものです。また、筆頭著者の二瓶は文部科学省・日本学術振興会の実施する博士課程教育リーディングプログラム(R03)の支援を受けました。

Reference:

Nihei, Y., Minami, T., Nakauchi, S., Brain Activity Related to the Judgment of Face-Likeness: Correlation between EEG and Face-Like Evaluation, *Frontiers in Human Neuroscience*, <https://doi.org/10.3389/fnhum.2018.00056>

本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 河合・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506